15

株式会社大伸シプレ

最新型自動包装加工ラインの導入による成長分野“巣ごもり消費”市場製品の受注拡大

具体的な事業内容

包装資材の総合商社として包装・梱包資材・関連機械全般の販売を行っている株式会社大伸シプレ。新型コロナの感染拡大により既存事業に大きなダメージを受けたが、これを機に一部作業工程を自動化し“巣ごもり消費”市場への対応に取り組んだ。

会社概要



■ 社　　名　：株式会社大伸シプレ
■ 代表者名　：代表取締役会長　倉嶋 正敏
　　代表取締役社長　倉嶋 克明
■ 所 在 地　：〒426-0009
　　藤枝市八幡714番2
■ 取 材 地　：同上
■ 設立年月　：平成3年4月
■ 業　　種　：包装・梱包資材・関連機械全般の販売(包装資材の総合商社)等
■ 資 本 金　：10,000千円
■ Ｔ Ｅ Ｌ　：054-645-3291
■ Ｕ Ｒ Ｌ　：https://www.taishin-spl.co.jp/

取組みの経緯


取材に応じてくれた倉嶋会長

梱包業者として信頼を勝ち取るもコロナ禍で苦戦

株式会社大伸シプレは、包装資材の総合商社として包装・梱包資材・関連機械全般の販売を主たる事業とし、包装資材卸と利便性の高いパッケージング受託加工サービス（ＯＥＭ）の両輪で、高い専門性と高品質を武器にサービスを提供している。特に同社の受託加工サービスはパッケージのデザイン制作から、ティーバッグ製造、茶葉袋詰め、ギフトのセットアップ、梱包まで、全ての工程を代行できるうえ、日本茶・紅茶などの「茶葉」に特化していることから県内の多くの企業から支持を得ている。

同社はこれまで大手コーヒーチェーン店の「業務（店舗）用ティーバッグ」の包装加工を受託していたが、新型コロナ感染拡大の影響による店舗休業の煽りを受け出荷停止となり、月額3～4百万円の売上が2020年4月以降はほとんどなくなり、また、北米への販売が好調であった「グローバル（輸出向け）商品」についても、月額１百万円の売上が2020年5月以降はなくなっていた。

取組みの内容


導入した包装機

生産性向上を図り巣ごもり消費市場へ対応

新型コロナ感染拡大による緊急事態宣言、また宣言解除後の店舗営業の回復度合いや、海外の感染状況・市場動向が当時は不透明であった。そのため、減収分を補う受注を確保できないと、雇用維持にも影響が出る恐れがあった。

このような状況下で、“巣ごもり消費”市場に拡大対応するため、コンビニ・量販店向け「小型パッケージティーバッグ製品」を受注し、量販店向け製品を強化していく計画を立てた。

ただし、当時の同社の製造ラインでは、本加工ラインの「入数計量」「袋詰め・シール」工程が手作業・目視で行われていたためボトルネックとなっていた。この工程の加工能力の低さ（2 袋／分≒ 800 袋／日）から、新規のオーダー（92,400 袋／月）に対する生産キャパシティーが圧倒的に不足していたため、売上機会のロスとなりかねない状況にあった。

結果



異物検査装置

加工工程の大幅な改善市場での優位性確立

これらの課題を解決し加工能力を増強するため、同社は自動計量機能を備えたティーバッグ包装機を導入し、これまでは手作業で行っていた入数計量工程を自動化した。

同じく手作業で行っていた袋詰め・シール工程についても連動用ロータリー式包装機を導入し、袋印字・印字漏れ目視チェック工程にて自動化及びミスゼロを実現した。さらに、この包装機はティーバッグ製品の品質（味覚・鮮度）維持機能を向上させる窒素ガス充填を自動で行うことができることから、包装加工の付加価値を高めることができた。これらの装置導入により加工能力を4.5 倍、また1人当たり生産性を1.5倍に向上させたことで、１袋当たり加工コストを25%低減することができた。

さらに、金属やプラスチック片などの検出が可能な「X線異物検出装置」、入数不足を検出する「重量測定機」を導入し、大手企業との取引に対し万全の態勢を整えた。

新型コロナによるダメージは大きかったが、ＱＣＤの大幅な向上により、巣ごもり消費市場での競争優位性を確立した。